本　賞

谷　井　建　三

魚津市出身のイラストレーターで、和船を中心とした海洋画家の第一人者。遣唐使船や咸臨丸、初代南極観測船「宗谷」など、30年以上にわたって「船」に関する絵を描き続け、「船の科学館」（東京）にも常設展示されている。特徴は、「写真よりもリアル」と言われる船の精密描写。和船研究の重鎮、元日本海事史学会会長の石井謙治氏の考証が基になっており、史料としても高い評価を得ている。こうした作品を挿絵に使った出版物も数多い。

日本大学芸術学部造形科でインダストリアルデザインを専攻。卒業後、高島屋宣伝部に就職し、3年後に独立、本格的にイラストレーターとして活動を始めた。

古里・魚津とのつながりも深く、平成22年8月には魚津高校時代の同級生（魚高八窓会）らが中心となり、魚津市では初の個展「海から見た日本史」を開催、併せて画集も発行し関心を集めた。魚津市内では、新川文化ホールに「三国丸」や魚津市役所に「高田屋嘉兵衛の辰悦丸」が所蔵・展示されるなど、多くの市民の目を楽しませているほか、作品を所蔵する企業も多い。今年から母校の魚津高校に「塩廻船」が飾られた。1937（昭和12）年生まれ、東京都在住。

「三国丸（さんごくまる）」
＝新川文化ホール所蔵

「高田屋嘉兵衛の辰悦丸」
＝魚津市企画政策課所蔵

イラストレーター谷井さん（魚津出身）古里で118点展示

友情の個展開催に感謝

和船画の第一人者で魚津市出身のイラストレーター、谷井建三さん（73）＝東京都江東区＝の個展「海から見た日本史」が9日、同市駅周辺の魚津商工会議所ビル階で始まった。谷井さんとともに魚津高校を昭和31年に卒業した同級生でつくる「魚高八窓会」が企画。開会式に谷井さんも出席し、同級生たちの友情に感謝し旧交を温めた。北日本新聞社後援。

【webnに写真3枚】

魚高八窓会が、中央で活躍する谷井さんの作品を市民に見てもらおうと準備を進め、個展に合わせ画集（A4判、税込み千円）を出版した。

個展は50号の大作から小品までの118点を展示。江戸中期の巡船「三国丸」や勝海舟が太平洋を横断した蒸気船「咸臨丸」など船を描いた作品だけでなく、雑誌や小説のさし絵用に描いた海戦もの、戦記ものなどバラエティーに富んだ作品が並ぶ。

開会式では大崎利明会頭、沢崎市長、金山北日本新聞新川支社長の祝辞に続き、谷井さんが「立派な個展を開いてもらい感謝している。同級生のみなさんと話ができることを楽しみにしている」とあいさつした。

八窓会を代表し吉田繁夫さんが個展開催の経緯について「酒を飲んだ席での勢いで決まった」とユーモアたっぷりに紹介。5人でテープカットし、個展開催を祝った。

この日は八窓会の会員約20人が出席。22日までの会期中は会員が交代で受け付けを務める。入場は無料。画集は会場で販売している。

作品について説明する谷井さん（奥左）

魚津商工会議所ビルで開催された個展
「海から見た日本史」の様子を紹介した
北日本新聞紙面（2010年8月10日付）

特　別　賞

山　崎　久　夫

朝日町舟川新の山崎久夫さん（69歳）は、稲作とチューリップ栽培を中心に、有限会社「チュリストやまざき」の代表として、農業に携わっている。

ここ数年は、残雪をいただく朝日岳を背景に、舟川べりの桜並木、菜の花、チューリップ畑という″春の四重奏″の景観を作り出している。この絶景ポイントを目当てに、最近は、県内外から、アマチュアカメラマンや観光客が訪れるようになり、朝日町の観光スポットのひとつになっている。朝日町で以前28軒あったチューリップ農家が、今では山崎さん方1軒だけになってしまったなかで、山崎さんは、昔の風景を蘇らせたいと、減反の対象になったりした圃場や畑を一面広く借り受け、このダイナミックで美しい花景色の再生に取り組むようになった。

また一方で、古代米とコシヒカリなど、幾種類もの稲を組み合わせて、秋になると、いろいろな絵を浮かび上がらせる″田んぼアート″にも、6年前から取り組んでいる。今年は、震災支援をテーマに、″おにぎり＆日本のゲンキ″″福島の白河だるま″を、ＪＡ青壮年部など各方面の協力を得ながら描き出した。

このほかにも、最近では、「とやまさくら守の会」「日本櫻学会」「日本花の会」会員として、さくらの新種発見にも努めるなど、持ち前の研究熱心さで交流の幅を広げながら、精力的な活動を続けている。

地域社会賞

特定非営利活動法人　黒部まちづくり協議会

サクラワークショップ

「いつか桜の下で」を合言葉に、黒部を桜の名所として発信していくとともに、自然への慈しみや桜を通した人と人との交流促進を目的に活動しています。

平成９年からは、１万本の桜の植樹を目指し、植樹活動を実施。昨年、黒部市で開かれた「全国さくらシンポジウム」では、全国から集まった愛好家や研究者に「さくら」をキーワードにして、これから数百年を生きる桜を育て続けるまちづくり、人と人との交流によるまちづくりの取り組みをアピール。

また、桜の楽しみ方を紹介するＨＡＮＡ通信を発行し、「さくら」を巡る街歩きの企画や市内の桜のいわれをまとめた地図を作成するなど、「さくら」による街づくりに取り組んでいます。

平成２２年には、富山県から「花と緑の功労者表彰」を受賞。八木リーダーは、「今後もますます頑張って、桜の植樹と維持管理などの活動を続けていこうと思います」と話しています。

地域社会賞

小菅沼　ヤギの杜

標高200メートルを越える山間にある魚津市小菅沼集落は、高齢化に加え、居住拠点を街部へ移す人も多く、農業の維持に厳しい問題を抱えている。このままでは、耕作放棄地の発生・拡大が懸念されたことから、集落の有志ら10数名で「小菅沼ヤギの杜」（代表：松田治之さん）を平成20年に結成、以来、中山間地域の活性化のため様々な活動に取り組んでいる。

グループの名前にもなっているヤギの放牧は、４年前から実施。農地法面へのヤギの放牧を通して、ヤギによる舌草刈りや猿害対策、地元児童との交流を行っている。また、魚津市中山間地域連絡協議会と連携し、他集落とひまわりの種まきから収穫までを行い耕作放棄地発生防止に取り組んでいる。

他にも、炭焼窯作り、間伐材を利用したベンチ制作、ソバ作り、田んぼアート、ヤギ乳クッキー、ワサビ・ブルーベリー・ルバーブ栽培等、活動の幅を広げている。

集落には、来客用のゲストハウス「ふれあい館」も建設され、県内外から癒しを求めて多くの家族連れが訪れている。

また、富山県の紹介を受けて「中産間地域の活性化」をテーマに関係者が視察に訪れるなど、注目を集めている。

子どもとヤギ

田植え

稲作アート

ひまわり

ヤギ

地域社会賞

入善町母子保健推進員連絡協議会

入善町母子保健推進員は、子育てなどに悩む母親を支援するため、昭和44年に設置され、以来42年間、育児相談やむし歯予防教室など様々な活動を通して町の母子保健事業を支えてきた。会員は現在27名（会長：朝野裕子さん）。元保育士や元看護師、元歯科衛生士らで構成されている。

会では、「母乳育児」の推進を目標として掲げており、入善町では、１か月児、３か月児ともに約８割が母乳育児で、これは、全国でもトップクラスとなっている。

また、「健康で長生きは乳幼児期からの生活習慣から・・・歯を大切にしよう！」をテーマにオリジナルの紙芝居にペープサートを組み合わせ「むし歯予防教室」等で上演している。平成22年度は公民館、医療センター、幼稚園、保育園などで19回上演、教室参加者は約940人に上る。わかりやすく楽しい上演は子どもたちからも人気を集めている。

また、最近は食育の推進、思春期にも力を入れている。町が行う「離乳食教室」や中学生に命の大切さを教える「いのちの教室」に協力している。

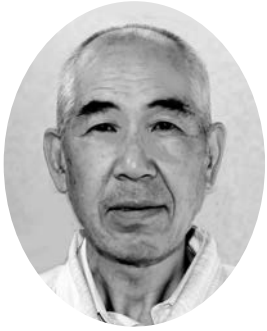
なお、会は、これまでの活動が評価され、昨年度の「健やか親子21全国大会」で『厚生労働大臣表彰』を受賞している。

むし歯教室

読み聞かせ

体重測定

命



奨　励　賞

稗　田　康　雄

稗田康雄氏は、号・康光、魚津市小菅沼に在住する全国的に知られる刀匠である。

魚津市青島生れ、小中学校のころご飯を炊く窯で針金を焼き、それを金槌で叩いて刀を作って遊んだ。それが長じて刀鍛冶になる。寝袋一つを持ってしてでも入門したいと言う強い意志が湧いてきたと言う。

最初は滋賀県の会社に勤める。昭和42年、滋賀県蒲生郡日野に刀鍛冶の伝統ある岡山県出身の刀匠17代竹下裕光師の門を叩く。最初は親の承諾がないからと断られたが、２回目は会社の上司が付き添ってようやく入門が許される。16歳のときであった。

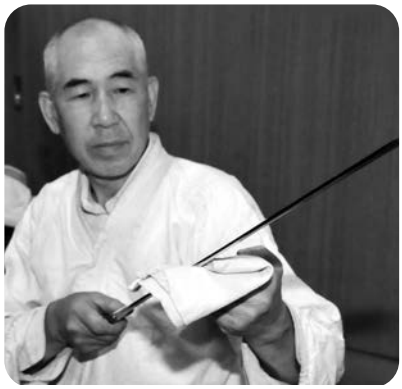
昭和53年に独立。刀を打つのに適した静かな山間地を探し求め、昭和59年現在地の松倉に移る。松倉はたまたま松倉城主椎名家の家臣であった刀匠郷義弘のゆかりの地であった。その巡り合わせに感動し郷に魅せられ、郷義弘の名刀と足跡を追い研鑽を重ねる。稗田氏は、郷義弘の域にはとても及ばぬと言うものの、郷の精神と業は脈々と受け継ぐ全国唯一の刀匠と言えよう。

昭和48年から53年及び57年、新作名刀展に6回入選。現在までに刀(2尺以上)約480振、脇差(2尺)約150振、短刀(1尺)約70振を世に送っている。

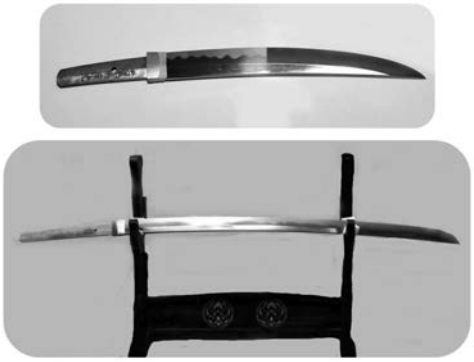
鍛冶屋の表札
「炎楽恋龍庵」

真っ赤な素材を何度も
折って打つ折り返し鍛錬

打粉をかけての手入れ



拭いをして仕上げる



完成した作品「短刀と刀」

奨　励　賞

竹　内　ヨシエ

朝日町笹川在住の竹内ヨシエさんは、大正９年生まれ、昨年５月５日で91歳を迎えた。昔から、絵を描くことは大好きだったが、実際に絵筆を取って、地元日本画家の墨絵教室に通うようになったのは、60歳を過ぎた頃から。多くを語らない先生の描く姿を見ながら、四季折々のふるさと笹川の風景を何度も描き、その画風を自分のものにしていったと言う。

太平洋戦時中、戦火の激しさとともに、父の勤務先があった富山市から朝日町に戻ったヨシエさんは、日々畑仕事に精を出しながら、自らを包み込んでくれるふるさとの景色をいつかキャンバスに残したいと、その想いを膨らませていった。

そして60歳から描き続けて30年。記念の節目を迎えた昨年、風景・静物・人物・花など、これまでの数々の作品を発表する機会として、「ヨシエばあちゃんの絵仕事展」を、朝日町立ふるさと美術館の開館20周年記念事業 郷土作家展として開催できることになった。

墨絵からは、ヨシエさんの芯の太さが・・・、水彩からは、独特の空気感が・・・、そして、油彩からは、命を吹き込もうとする意志の強さが感じられると言う。まだまだ描きたい風景、行ってみたい場所があるというヨシエばあちゃんの絵仕事は、これからも続きそうだ。

奨　励　賞

社会福祉法人くろべ福祉会　**くろべ工房**

ウリは、味・種類・元気！

黒部市の社会福祉法人くろべ福祉会「くろべ工房」では、障害者の就労支援施設として、利用者にとって、人の役に立つことの喜びを生み出すだけでなく、地域住民の笑顔に貢献しています。

清掃業務や、部品の組み立て作業など、数ある業務の中の一つに、移動販売があります。移動販売車の中で、利用者が自ら麺を茹でて作る、そばやうどん。昔なつかしい″あんばやし″のほか、40種類を超えるパンを毎日、手作りし、販売しています。

新商品の考案・開発にも余念がなく、毎月変わるメニューで、リピーターを飽きさせません。味と仕事の丁寧さ、スタッフの元気に定評があります。

新川地区の″走る食堂″

食堂のない黒部市役所や桜井高校をはじめ、新川地区なら会社にも出張販売に来てくれる利便性から、着実にファンが増えています。

桜井高校では、車イスの利用者も安心して販売に来てもらえるようにと、生徒が廊下にスロープを作るなど、あたたかな心の交流も生まれています。

みんなの食堂として、障害をもった人たちの希望の星として、これからの活躍にも期待できます。

青少年育成賞

富山県立入善高等学校　**農　業　科**

富山県立入善高等学校農業科は下記表のように地域との関係を非常に密に且つ大切に考えています。地域社会に溶け込む事で明るくて、礼儀正しい、思いやりのある青少年を育てるという考えを根底に持っています。行われる事業は全て中身が濃く長く継続しています。メディアに取り上げられる事も数多く色々な事業が町の風物詩のひとつになっています。

4月	野菜苗販売	上田農場で2月から準備してきた野菜苗20種、草花苗10種、計3万株を販売しています。初日は発売時間には200名以上が並んで待つほど人気があり、毎年野菜苗は約3日でほとんどが完売となります。
5月	共学農園(野菜)(年10回)	地域の方が生徒の指導を受けながらメロンの栽培を学びます。今年度は8名の方が受講されました。
5月	むつみ園との交流 (年4回‥1人当たり2時間)	年3回はむつみ園の方々が農場を訪れ生徒と一緒に花苗の植え付けやミニトマトの収穫を行ないます。最後の4回目はむつみ園を訪問し、サツマイモの収穫を手伝っています。
5月	入善町商農工連携事業(植付)	入善町商工会青年部、JAみな穂青壮年部が中心となって開発中のレッドラーメン用のトウガラシの植え付けを手伝いました。
5月	とれたて朝市(年15回)	5月第4土曜日から開催される朝市に、12月までの毎月第2、第4土曜日に朝7時30分から出店しています。毎回、農場の野菜や草花苗、鉢花などを販売しています。
7月	にいかわ総合支援学校との交流(年2回)	1回目は、黒部市石田の総合支援学校で作業学習に参加しています。2回目は、上田農場で染色材料となるマリーゴールドの花びらの収穫やミニトマトの収穫などをした後、ビンゴゲームで楽しく交流しています。
8月	入善町商農工連携事業(収穫)	5月に植え付けた、トウガラシの収穫作業を行ないました。
10月	入善小2年生との交流(草花)	ビオラやパンジーなどの花苗を花壇に植え付けた後、みんなで小学校で収穫したサツマイモを食べて交流しました。
10月	農産物即売会	JAみな穂で開催された農業祭に出店し、サトイモやネギ、鉢花や花苗を販売しました。特にネギ苗は入善高校産として最も人気があり、販売時間前から行列ができ初日でほぼ完売しました。
12月	シクラメンの振り売り	入善町の冬の風物詩となっているほど人気のある入善高校のシクラメンを、生徒が二人一組になって町中を売り歩く実習です。ほとんどの生徒が30分ほどで10~12鉢を売り切ります。朝日町、黒部市でも販売に行きます。